■■メールマガジン「静岡県防災」第４号■■

「二つの５月の地震」（危機報道官の記憶と思い出）

昨日５月９日は、1974年（昭和49年）に「伊豆半島沖地震」が発生した日です。
48年もの歳月が経過しました。
慰霊の念を抱きつつ、当時の記録を見ると、震源に近い南伊豆で最大震度５とのことでした。

平成８年３月以前は気象台の職員による体感値で震度が決められていましたが、現在の震度計による計測であれば、もしかしたら震度６弱以上に相当する揺れがあったのではないかと勝手に推測しています。

当時、県東部在住の小学生だった私は、生まれて初めての地震に恐怖を感じました。学校の教室で先生の話を聞いていたときでした。
とっさに、机の下に身を置いた記憶が鮮明に残っています。校舎に被害がなかったことは幸いでした。

５月に発生した地震で、もう一つ忘れられないのは、2008年（平成20年）５月12日に発生した中国四川大地震です。
この地震のマグニチュードは、南海トラフ地震クラスのM7.9とも8.0と言われています。四川省の山間部を中心に約10万人が死亡・行方不明となりました。

私は、縁あって、2013年（平成25年）の秋に、震源域の汶川県映秀（ぶんせんけんえいしゅう）の地を視察する機会を得ました。
四川省の省都である成都から車で１時間ほど山間部に入った峡谷の町です。
町は復興著しく観光地のような商店街が整備されていましたが、中学校の校舎は崩壊したままの無残な姿でした。
ここで多くの生徒が犠牲になりました。哀れでなりませんでした。

学校の授業時間中に発生したこれらの地震。二つの５月地震を思い出す度に、子供の命を守ることの重要性、学校をはじめ全ての建物の耐震化の必要性を再認識します。

詳しくはこちらをインターネットで検索　⇒
http:taishinnavi.pref.shizuoka.jp